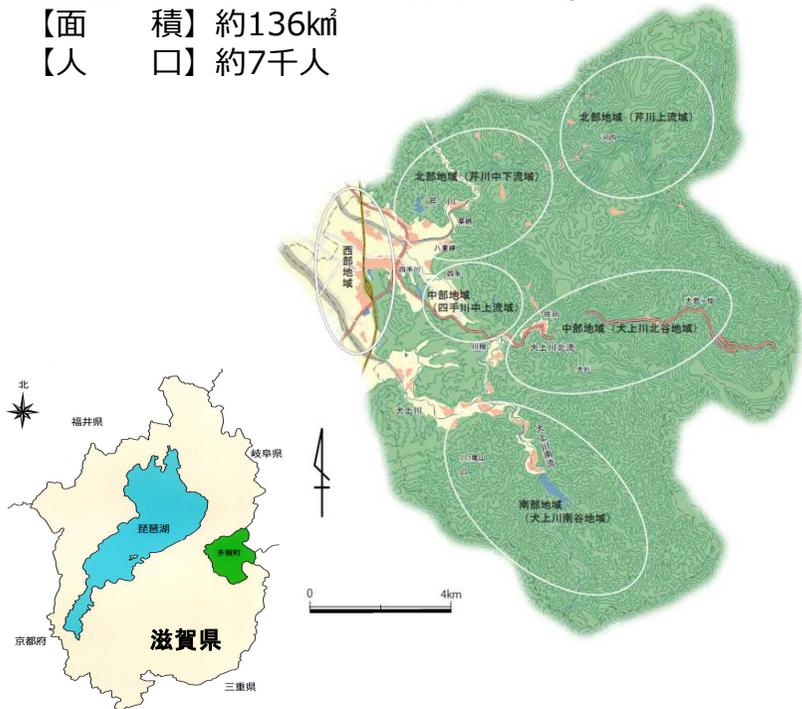


13 多賀町文化財保存活用地域計画【滋賀県】

【計画期間】令和4～13年度（10年間）

【面積】約136km²

【人口】約7千人



歴史文化の特徴

【扇状に広がる街】

○山の幸、川の幸

自然との「交流」がもたらした文化

【キーワード】：自然 地下資源 扇状地 石 水 木 信仰

- ・ 山という自然がもたらす遺産
- ・ 自然に宿る神—自然との交流から生まれる
- ・ 犬神川扇状地の生活と水の恵み

○三社参り

人の「交流」が生み出す文化

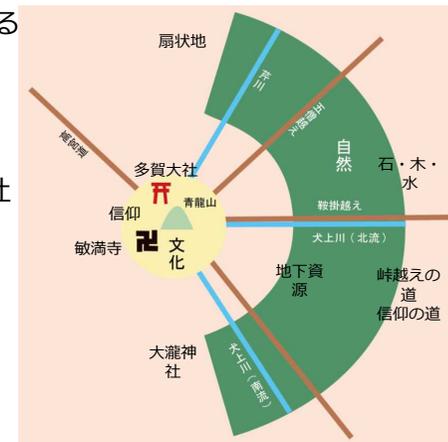
【キーワード】：多賀大社・敏満寺・大瀧神社

- ・ 敏満地と南砺との交流
- ・ 多賀大社につながる道、そして信仰
- ・ 犬神郡の発祥の地と大瀧神社

○新たな多賀大社参詣曼荼羅

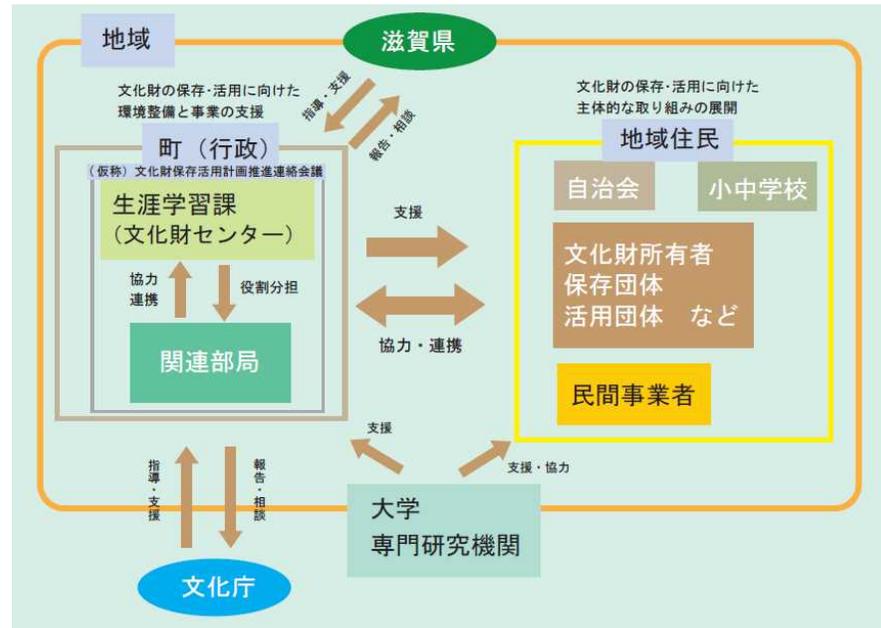
「交流」をもたらした文化

【キーワード】：峠越えの道・信仰の道



類型		国指定	県指定	町指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	—	3	2	7	12	
	美術工芸品	絵画	1	1	5	—	7
		彫刻	1	—	9	—	10
		工芸品	1	4	5	—	10
		考古資料	—	—	—	—	—
		歴史資料	—	—	1	—	1
		書籍・典籍・古文書	—	1	5	—	6
記念物	史跡	1	—	2	—	3	
	名勝	2	—	—	—	2	
	天然記念物	—	1	3	—	4	
無形文化財	—	—	—	—	—		
民俗文化財	—	—	—	—	—		
文化的景観	—	—	—	—	—		
伝統的建造物群	—	—	—	—	—		
選定保存技術	—	—	—	—	—		
合計		6	10	32	7	55	

● 指定等文化財は、55件
● 未指定文化財は、54件
● 把握 1,548件



【将来像】文化財、ひと、地域が中心にあるまち

文化財の保存・活用に関する課題・方針



文化財の保存・活用に関する措置の例



<p>文化財を守り、活かし、継承していく人材を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育との連携 ・観光ボランティアガイドの育成 ・歴史講座の実施 ・文化財の調査への地域住民の参加  <p>■ 取組主体: 行政・地域、所有者 ■ 計画期間: R4～13年度</p>	<p>多賀町外への文化財の価値の共有・発信を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然遺産の価値発信 ・説明板、サイン表示の設置 ・観光ルートの整備 ・伝統野菜、食べ物を使った料理の開発  <p>■ 取組主体: 行政・民間 ■ 計画期間: R4～13年度</p>	<p>町内の連携関係を強化し、協力・協働体制を構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民への地域計画の周知 ・まちづくり協議会の設立 ・住民が参加できる仕組みづくり  <p>■ 取組主体: 行政・地域、所有者 ■ 計画期間: R4～13年度</p>
--	---	---

多賀町文化財保存活用区域『多賀大社参詣曼荼羅の世界』

区域は人の行き来の中で文化財の保存と活用を推進できる素地にも恵まれており、町中心部と山間部地域との新たな連携や活用効果の波及させる、町内外から「人を集めて周縁部に振り分けるポンプ」の役割を果たすことを目指す。

安土桃山時代に描かれた「多賀大社参詣曼荼羅図」から読み取れるように、多賀大社・敏満寺の両寺社の門前町は地理的に近く、空間的な一体性が歴史的に育まれ、本地区は、政治・経済・文化・宗教といった様々な面で地域社会の中心であり、歴史的に重要な地域として展開してきた。

この区域内・隣接地域には、駅、門前町を中心とするコミュニティスペースや観光・商業活動の拠点、町役場があり、地域の各種団体や住民が活動しやすい条件が既に備わっている。かつ、多賀SA・仮称多賀SICは敏満寺遺跡の中に立地し、出土遺物などの公開等が図れることから、多賀SA内にある既存の情報発信施設も積極的に活かし、事業の効果を高める。



【課題】

- 文化財が豊富に存在するが、線的・面的に関連付けがされておらず、本来の歴史文化的な価値が発揮されていない。
- 復元整備されているが、本来の価値が発信・共有できていない。
- 保存整備事業がまちづくりの中に生かされていない。
- アクセスが絶好の場所に文化財が立地しているにもかかわらず、その観点からの活用がまだ進んでいない。
- 多賀大社の門前町および周辺地域は、文化財の保存・活用を効果的に生み出す形の整備・保全が完成していない。
- 文化財の保存と活用のサイクルを持続・維持していくために必要な人材や後継者が十分に育成できていない。

【方針】

- 1 史跡・名勝の整備・保全を有機的に関連付けながら保存と活用を進める
- 2 区域内の文化財の価値を積極的に発信する
- 3 門前町の整備・保全を核にして進める
- 4 方針1～3を効果的に推進するために歴史的風致維持向上計画作成への取り組みを進める。

【措置】

- 名勝故宮神社社務所庭園整備・定期的な開園の実施
- 史跡敏満寺石仏谷墓跡整備
- 史跡敏満寺石仏谷墓跡追加調査の実施
- 史跡敏満寺遺跡保存活用計画の見直し、整備
- 史跡敏満寺遺跡のガイダンス施設の整備
- 多賀大社境内と門前町の整備、建造物登録の推進
- 町なか活用拠点施設の整備（空き家を活用して拠点施設を整備）
- 多賀大社祭礼調査
- 敏満寺・大門池におけるARによる景観復元プロジェクト
- 区域内でのユニークベニューの実施
- 文化財プロモーション
- 周遊ルートの作成
- 多賀SAにおける情報発信スペースを活用した文化財の発信
- 説明板・サイン表示の設置
- 人材育成やプログラム構築等ソフト整備を進め取り組むための「まちづくり協議会」設立 など